

コミュニティ・スクールだより

第41号

名張市教育委員会事務局発行
令和5(2023)年11月15日



コミュニティ・スクールと 地域学校協働活動の一体的推進



10月13日(金)に開かれた小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会では、山口県よりお越しいただいた地域連携教育アドバイザーの木本育夫さんにご講演いただきました。本日よりでは、前回に引き続き、講演の内容をお伝えします。今回は、地域学校協働活動と体験活動についてお話しいただいた一部をお伝えします。

<地域学校協働活動とは>

幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」をめざして、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。(社会教育法第5条第2項)

<地域学校協働活動の推進による効果>

それぞれの地域の未来を担う子どもたちが、地域の方々に見守られ、支えられながら、豊かな学びや体験の機会を得て健やかに成長していくことは、地域に愛着を持ち、地域に貢献したいと考える人事の育成につながる。



そのためには・・・

- ・学校と地域、家庭(以下、三者)が「**共通の願い**」を持つことが大切
- ・教職員の異動に影響を受けにくいように、地域を加えた**持続可能な仕組みづくり**が必要

活動のポイント

- ・「**めざす子ども像**」等を共有し、**同じねらいで活動**する
- ・「**どのようなことを子どもたちに体験させるべきか**」を**三者で考え合う**
- ・「**どのような声掛けをするべきか**」を**三者で共有**する



大人の意識も高まり、子どもたちの生き生きした姿につながり、
地域の繋がりも深まる

【各校の取組紹介】

本号より、コミュニティ・スクールに関わる市内各校の特徴的な取組を紹介していきます。今回のテーマは「居場所づくり」で、名張中学校、薦原小学校、箕曲小学校の3校の取組を紹介します。



【生徒の思いに寄り添う場所「寺子屋∞(インフィニティ)」と「寺子屋」】…名張中学校…

「何だかモヤモヤする」「友だちと喧嘩をしてしまった」「勉強が分からない」など、しばしば、子どもたちは戸惑い、教室に入りにくくなったり、登校しにくくなったりすることがあります。そんな時、「気軽に誰かと話せたり、勉強したりできる場所があれば、一歩前に進むことにつながるのではないだろうか」という学校運営協議会(以下、学運協)委員の皆さんの思いから、本年度は生徒への心理的なサポートを中心とした「寺子屋∞(インフィニティ)」と、学習支援をねらいとした「寺子屋」として、新たなスタートを切っています。2つの取組とも、子どもたちの話に耳を傾けるのは、学運協委員やボランティアの皆さんです。実施にあたり、委員やボランティアの皆さんには、研修の機会を設けました。研修では、さくら教室(教育支援センター)から講師の先生を招き、子どもたちのありのままを受け止めることや傾聴の大切さについて学びました。



【地域と一体となった居場所づくり】…薦原小学校…

夏休みなど、長期休業中の子どもたちの居場所が課題となっています。現在、各種の放課後子ども教室や放課後児童クラブ(学童保育)がありますが、今年の夏休みに薦原小学校では、学運協が中心となって新たな取組「寺子屋こもはら小学生版」が立ち上がりました。さつき台集会所と薦原市民センターの2か所を会場に、それぞれ2日間ずつ(計4日間)、午前8時30分～11時30分まで開催されました。いずれの日も、活動時間の前半は夏休みの宿題を中心とした学習活動、後半はもの作り活動が設定されました。毎回多くの子どもたちが参加し、保護者の方からも大変好評で、「ぜひ来年も開催してほしい」との声をいただいています。



【高校生も参加した居場所づくり】…箕曲小学校…

夏休みに箕曲小学校の図書館を活用し、地元高校と協働した取組が行われました。一つは名張高校漫画研究部の皆さんを講師として招き、2日間に渡って実施された、イラスト教室です。初日はキャラクターづくり、2日目はタブレット端末のお絵描きアプリを活用したイラスト教室が開かれました。また、もう一つの取組では、名張青峰高校ESS部の皆さんを講師として招き、英語の歌やゲームを子どもたちと一緒に楽しみました。二つの取組とも、高校生も小学生も最初は戸惑いも見られましたが、すぐに慣れることができ、楽しい時間を過ごすことができ、小学生からは「来年も、来てほしい。」との声が聞かれました。